

「夜の動物街道(4)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

12月下旬の「夜の動物街道」では、わずか10分間車を走らせただけで、すでにニホンカモシカ、ニホンジカ、タヌキに出会っている。まるで「夜間無料のサファリパーク」である。



次に現れたのは「イノシシ」。このあたりでは、キツネと並んで、最もよく目にする動物だ。驚かすと、文字通り「猪突猛進」して来ることがあるので、そのままやり過ごした方がよい。オスのイノシシは牙を持っているので、車から降りて写真を撮るのも危険である。イノシシと出会った時は、特に注意が必要だ。



写真は夏の昼間の同じ地点(「竜返し滝」バス停付近)である。このバス停のあたりは、どうやらイノシ

シ専用の「けもの道」になっているらしい。とにかく高頻度でイノシシと出会う地点だ。この日は1頭だけで、悠然と道の真ん中を歩いていたが、繁殖期後には、「ウリ坊」を含む10頭近い大群で、通ることもある。その場合自動車は、列車が通り過ぎる踏切のように、じっと待つことになる。



この夜、最後に出会ったのが「キツネ」。この「動物街道」のキツネは、タチが悪い。ご覧の通り、車を避けようとしないうばかりか、逆に寄ってくる。エサをねだっているのだ。特に、自分では獲物を捕らえることが苦手な、若いキツネに多い。もちろん与えたり、触ったりしてはいけない。人間に依存しなければ生きられないような野生動物を、増やしてはいけないのだ。



このあたりには、他にも「テン(上写真)」「アナグマ」「ハクビシン」「アライグマ」「ニホンザル」などが生息している。いずれ紹介したいと思う。